

I 調査概要

1. 調査の概要
2. 結果の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

沖縄観光に関する県民の意識やニーズ及び行政に対する要望等を把握するとともに客観的かつ合理的な分析を行い、実効性の高い観光施策の企画・立案・評価及び沖縄観光ブランドの構築に資することを目的とする。

(2) 調査項目

- ①観光客との接点 (Q1～Q2)
- ②沖縄観光に対する意識 (Q12～Q14、Q5～Q7)
- ③観光産業に対する意識 (Q8～Q10、F7)
- ④観光施策の重要度・達成度 (Q4)
- ⑤観光客来訪による影響 (Q3)
- ⑥観光税の導入に対する意識 (Q15)
- ⑦コロナ収束後の観光に対する意識 (Q11)
- ⑧持続可能な観光に対する意識 (Q16～Q18)
- ⑨将来の沖縄観光のあり方や観光行政に関する意見 (Q19)
- ⑩回答者の年齢、性別、職業などの基本属性 (F1～F6、F8)

(3) 調査対象

- ・県内に居住する満 15 歳以上、満 75 歳未満の男女

(4) 調査方法

郵送調査（調査対象世帯の郵便受けに調査票を投函し、郵送又は WEB 経由で回収）及び WEB アンケート調査

* WEB アンケート調査は郵送調査を補完する目的で実施した。

(5) 調査期間

郵送調査 : 令和 4 年 12 月 22 日(木)～令和 5 年 2 月 19 日(日)

WEB アンケート調査 : 令和 5 年 2 月 13 日(月)～2 月 15 日(水)

(参考) 前回調査の調査期間

WEB アンケート調査 : 令和 4 年 1 月 28 日(金)～2 月 28 日(月)

郵送調査 : 令和 4 年 3 月 9 日(水)～3 月 25 日(金)

(6) 回収数

有効回収数 2,181 人 (うち WEB アンケート回収分は 1,450 人)

(参考) 前回調査の有効回収数 2,539 人

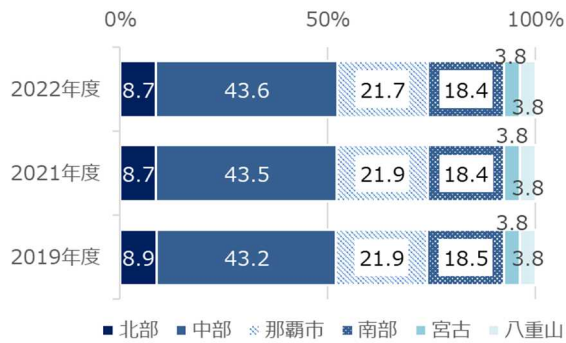
(7) 集計方法

沖縄県の人口構成に合わせるため、地域別、性別、年代別の人口構成比をウェイトとしてサンプルに重みづけを行う加重平均によって算出した。ただし性別で「回答しない」を選択したサンプルについては地域別、年代別の人口構成比で重みづけを行った。

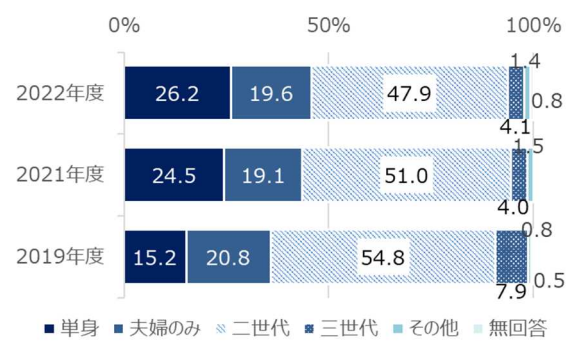
(参考) 2019年度調査までは、地域別のみ加重平均によって算出

(8) 回答者のプロフィール

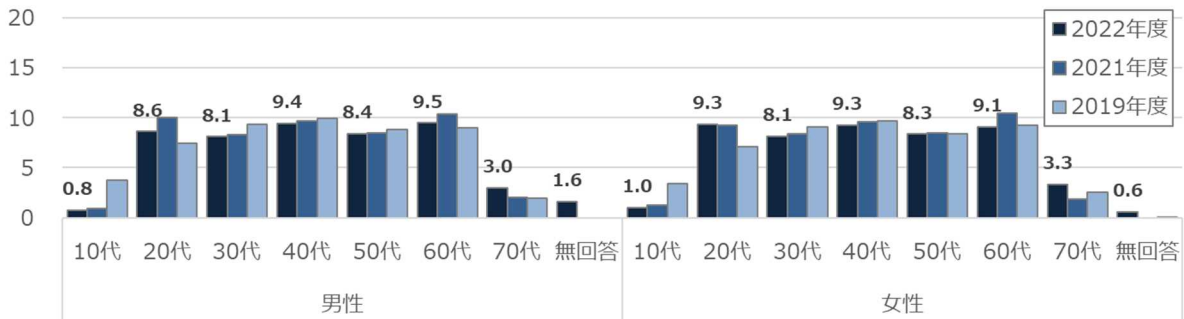
地域別 (%)



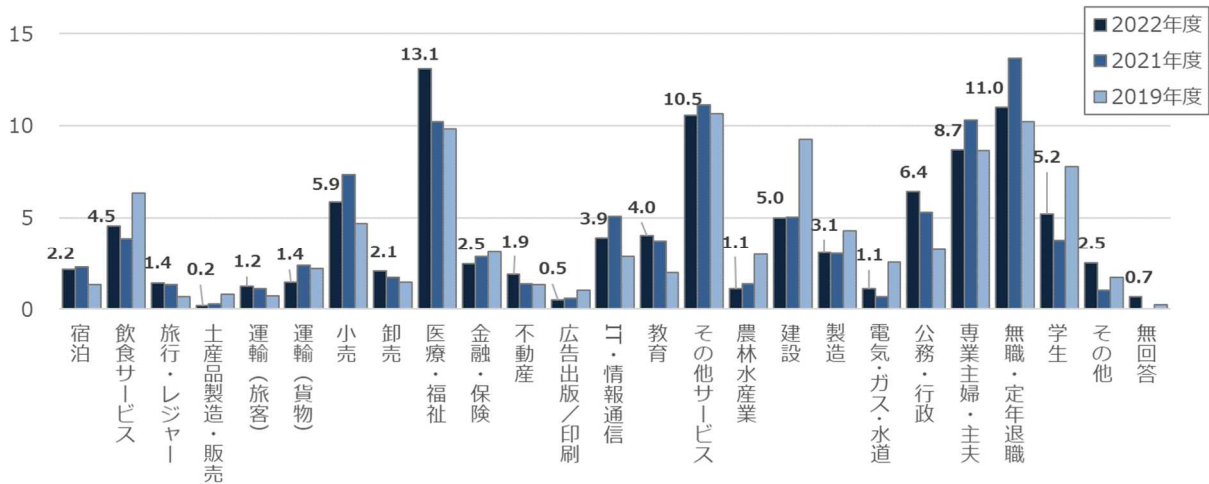
家族構成 (%)



性・年代別 (%)



職業別 (%)



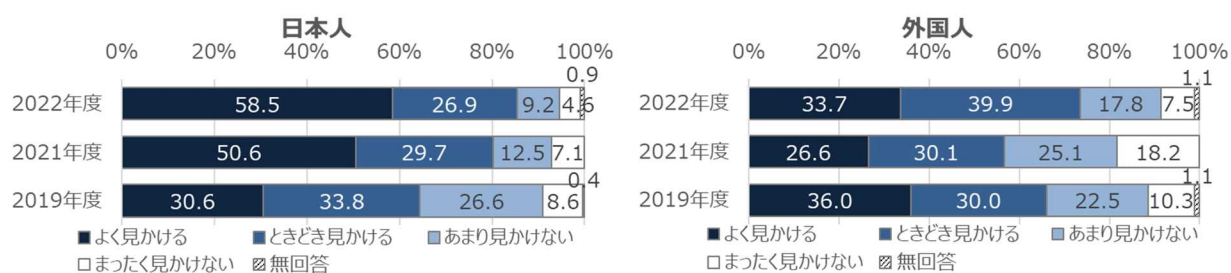
(注) 調査結果中の合計値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

2. 結果の概要

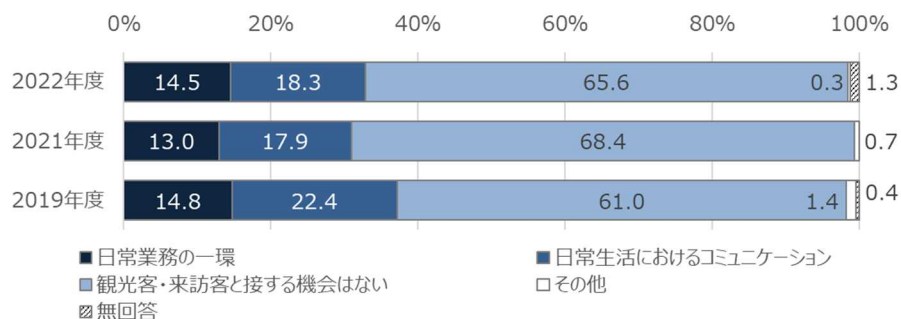
1. 観光客との接点

- ・観光客を「よく見かける」割合は、日本人 58.5%、外国人 33.7% と日本人が外国人を上回る。前回調査と比べると、日本人観光客を見かける頻度、外国人観光客を見かける頻度ともに増加している。
- ・観光客と接する機会は、「日常業務の一環で接している」が 14.5%、「日常生活におけるコミュニケーションで接している」が 18.3%、「接する機会はない」が 65.6%であった。

図表 観光客を見かける頻度



図表 観光客と接する機会

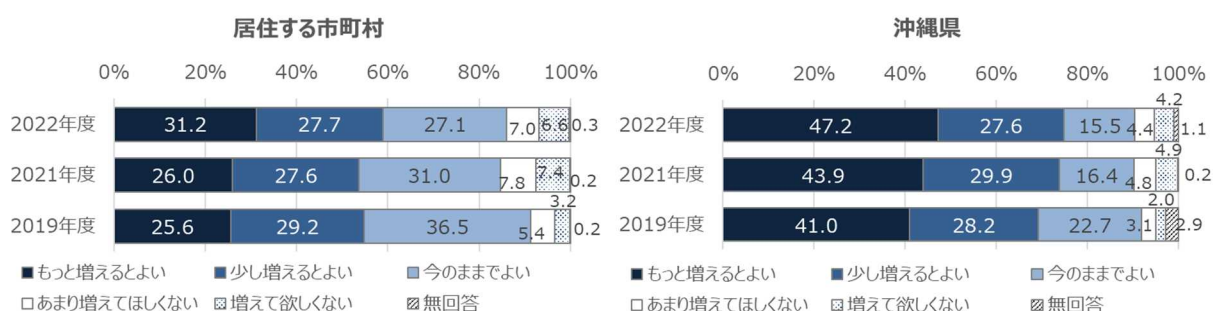


2. 沖縄観光に対する意識

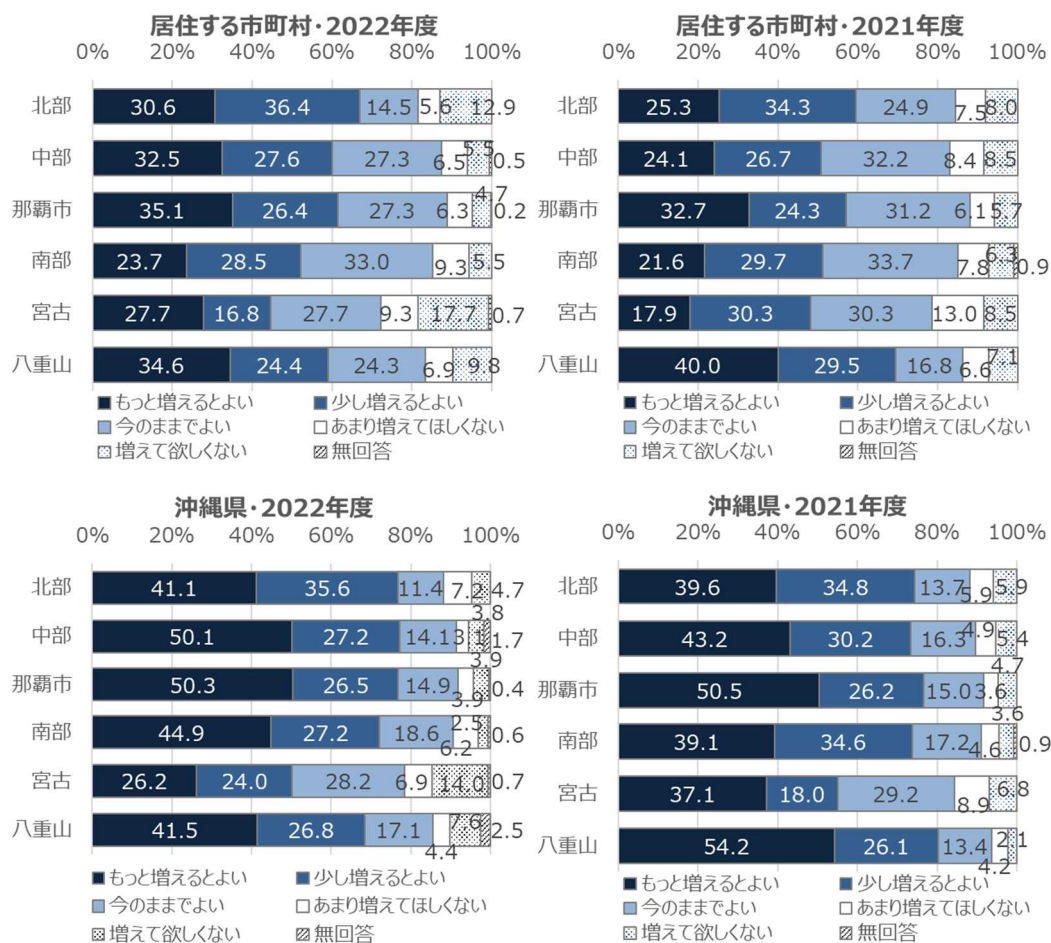
(1) 日本人観光客の来訪に対する考え

- ・日本人観光客の来訪に関して、沖縄県全体としては「増えて欲しい層（もっと増えるとよい＋少し増えるとよい）」が74.8%を占めるのに対し、自分が居住する市町村については「増えて欲しい層」は58.9%に留まる。沖縄県としては増えて欲しいが、居住市町村は今のままでよい、といったギャップがみられた。
- ・前回調査と比べると、居住市町村、沖縄県ともに「増えて欲しい層」が増加した。

図表 日本人観光客の来訪に対する考え



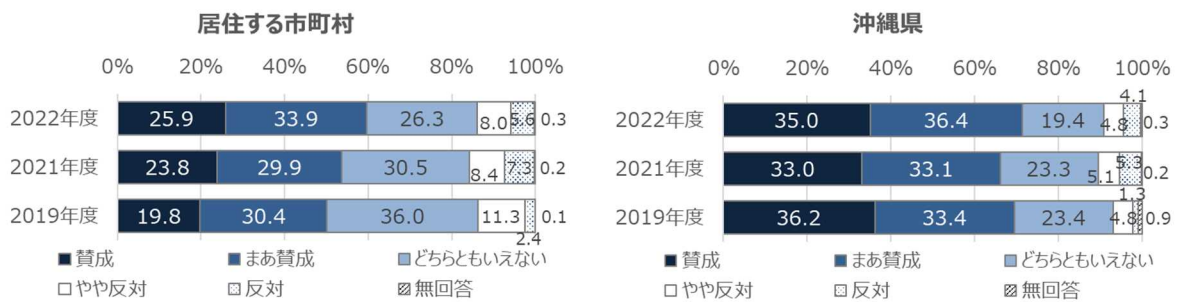
図表 日本人観光客の来訪に対する考え（地域別）



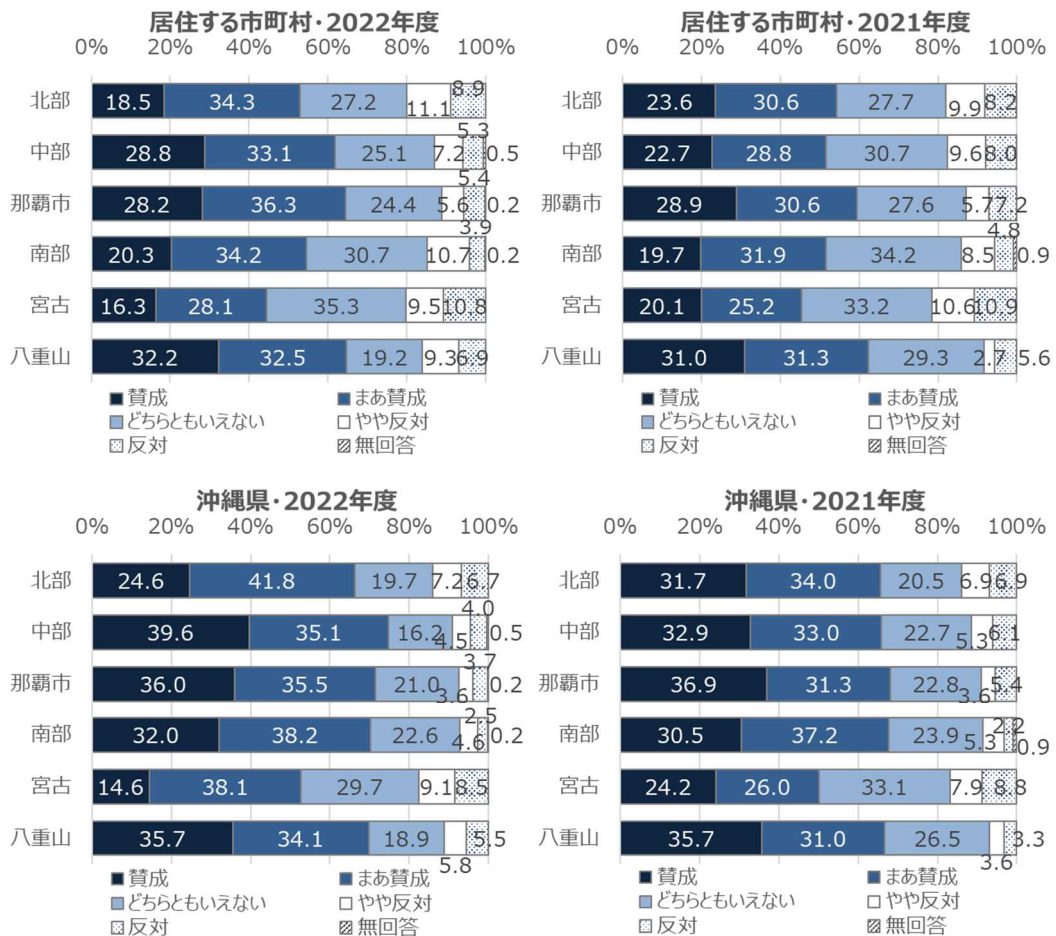
(2) 外国人観光客の来訪に対する考え

- ・居住する市町村への外国人観光客の来訪についての賛否では、「賛成派(賛成+まあ賛成)」59.8%、「反対派(やや反対+反対)」13.6%であった。沖縄県全体としては「賛成派」が71.4%を占めた。日本人観光客同様、外国人観光客についても、沖縄県全体と居住市町村とではギャップがみられた。
- ・前回調査と比べると、沖縄県全体、居住市町村ともに「賛成派」が増加しており、特に居住市町村への来訪に対しての「賛成派」は2019年度から増え続けている。

図表 外国人観光客の来訪に対する考え



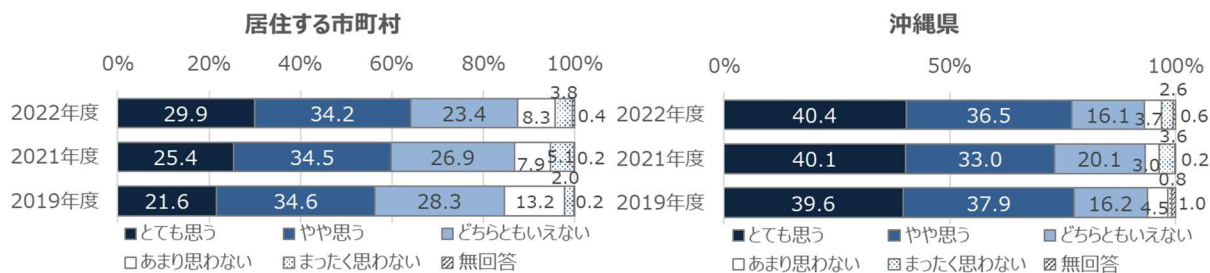
図表 外国人観光客の来訪に対する考え(地域別)



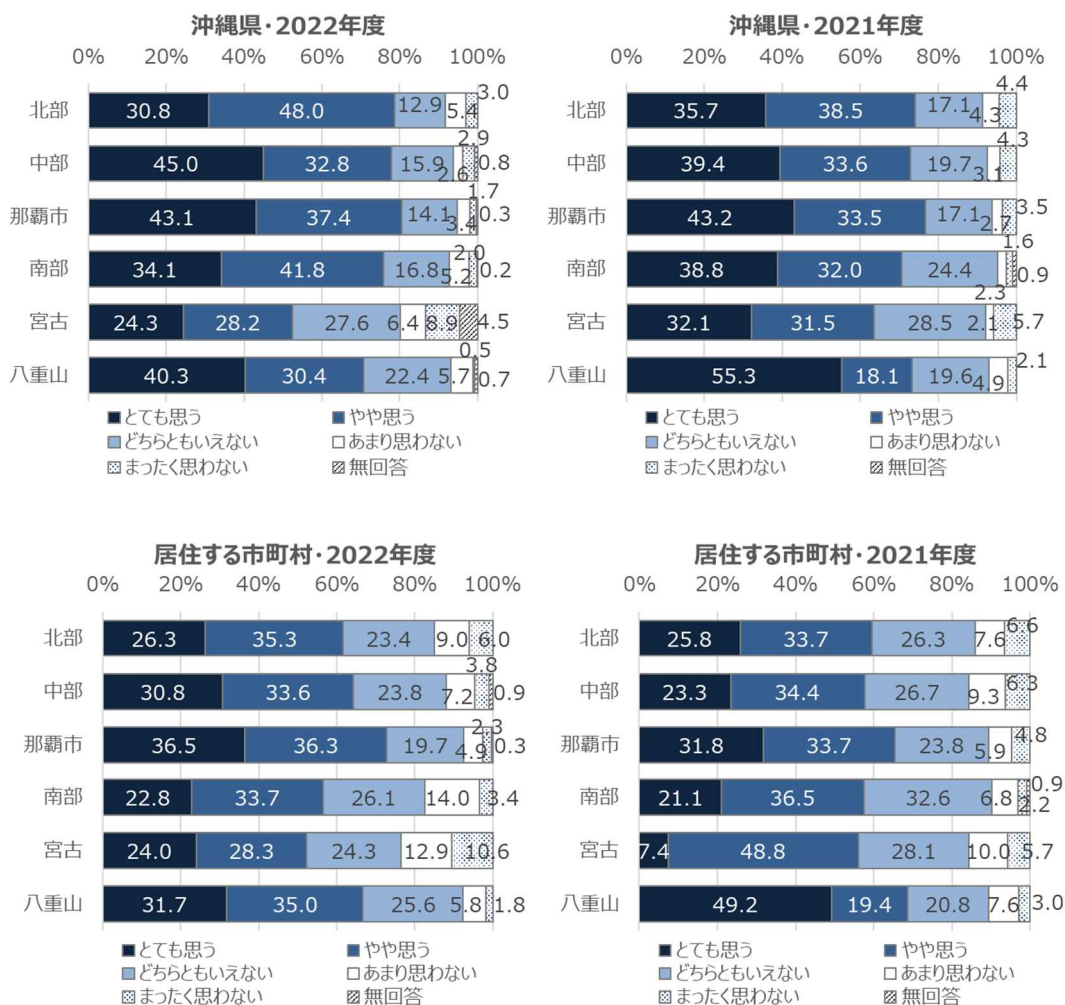
(3) 観光発展への期待

- ・居住する市町村の観光の発展を期待する人の割合は「期待する派（とても思う＋やや思う）」が64.1%を占め、「期待しない派（あまり思わない＋まったく思わない）」の12.1%を大幅に上回った。沖縄県全体としては「期待する派」が76.9%を占めており、観光の発展への期待は大きい。
- ・前回調査と比べると「期待する派」は、居住市町村、沖縄県ともに増加した。

図表 観光がもっと盛んになるといいと思うか



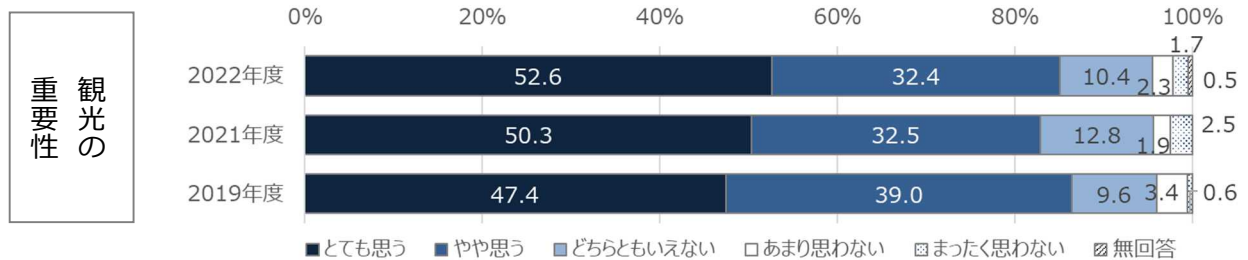
図表 観光がもっと盛んになるといいと思うか（地域別）



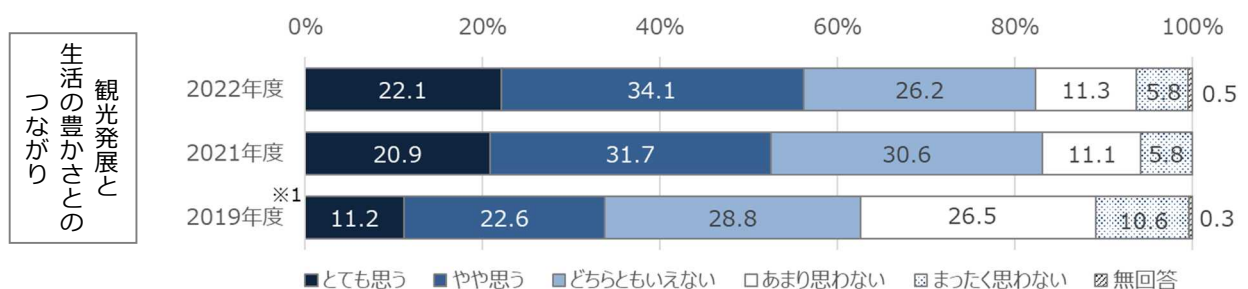
(4) 沖縄の発展における観光の重要性と生活の豊かさとのつながり

- ・沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしていると思うか尋ねたところ、「とても思う」が52.6%と約半数を占めた。「やや思う」を加えると、85.0%の人が観光の重要性を評価している。前回調査と比べると「とても思う」が増加した。
- ・観光が発展すると自分の生活も豊かになると思うかについては、「とても思う」「やや思う」を合わせた値が56.2%であり、約半数の人が生活の豊かさにつながっていると認識している。

図表 沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしていると思うか



図表 観光が発展するとあなたの生活も豊かになると思うか

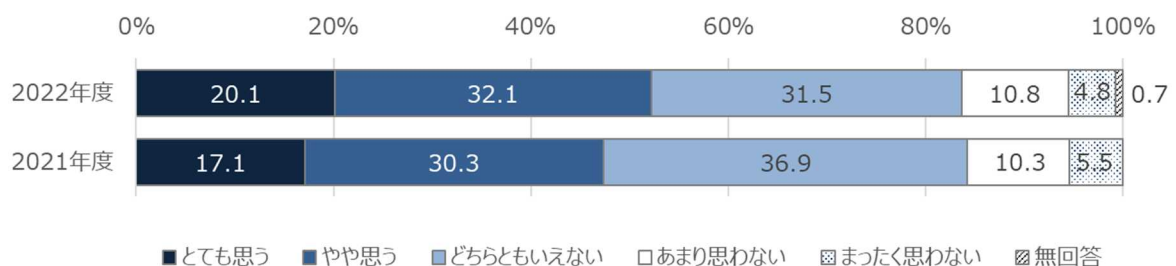


※1：2021年度調査より調査票において「観光が発展することで生じる様々な効果の例」を例示しているため、2019年度調査の結果と単純に比較することはできない。

(5) 沖縄の発展と住民の幸福とのつながり

- ・観光が発展する沖縄に居住することであなたは幸せを感じられると思うかについては、「とても思う」「やや思う」を合わせた値は52.2%であり、5割強の人が幸せを感じられると認識している。前回調査と比べると「とても思う」「やや思う」ともに増加した。

図表 観光が発展する沖縄に居住することであなたは幸せを感じられるか

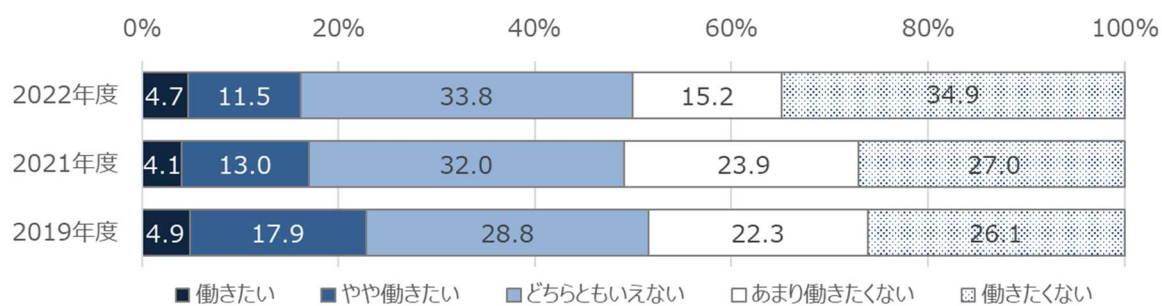


3. 観光産業に対する意識

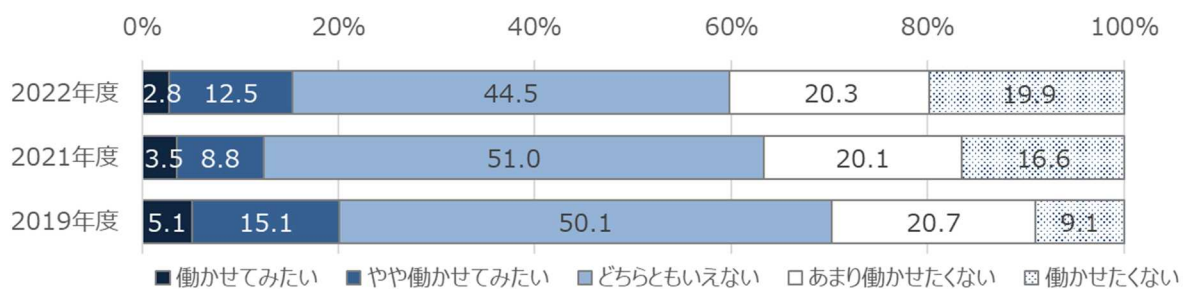
(1) 観光産業への就業意向・就業推奨意向

- ・未就業者に観光産業への就業意向について尋ねたところ、「働きたい層（働きたい+やや働きたい）」は16.2%となり、前回と同程度の水準であった。「働きたくない層（働きたくない+あまり働きたくない）」についても大きく変わっていないが、「働きたくない」は34.9%と前回調査より増加した。
- ・一方、未就業者の子どもがいる人に対し、観光産業への就業推奨意向について尋ねたところ、「働かせたい層（働かせてみたい+やや働かせてみたい）」が15.3%となり、前回調査より3.0ポイント増加した。しかし同時に「働かせたくない層（あまり働かせたくない+働かせたくない）」も40.2%と前回調査から3.5ポイント増加しており、子どもへの就業推奨意向は二極化が進んだ。

図表 観光産業への就業意向（未就業者のみ）



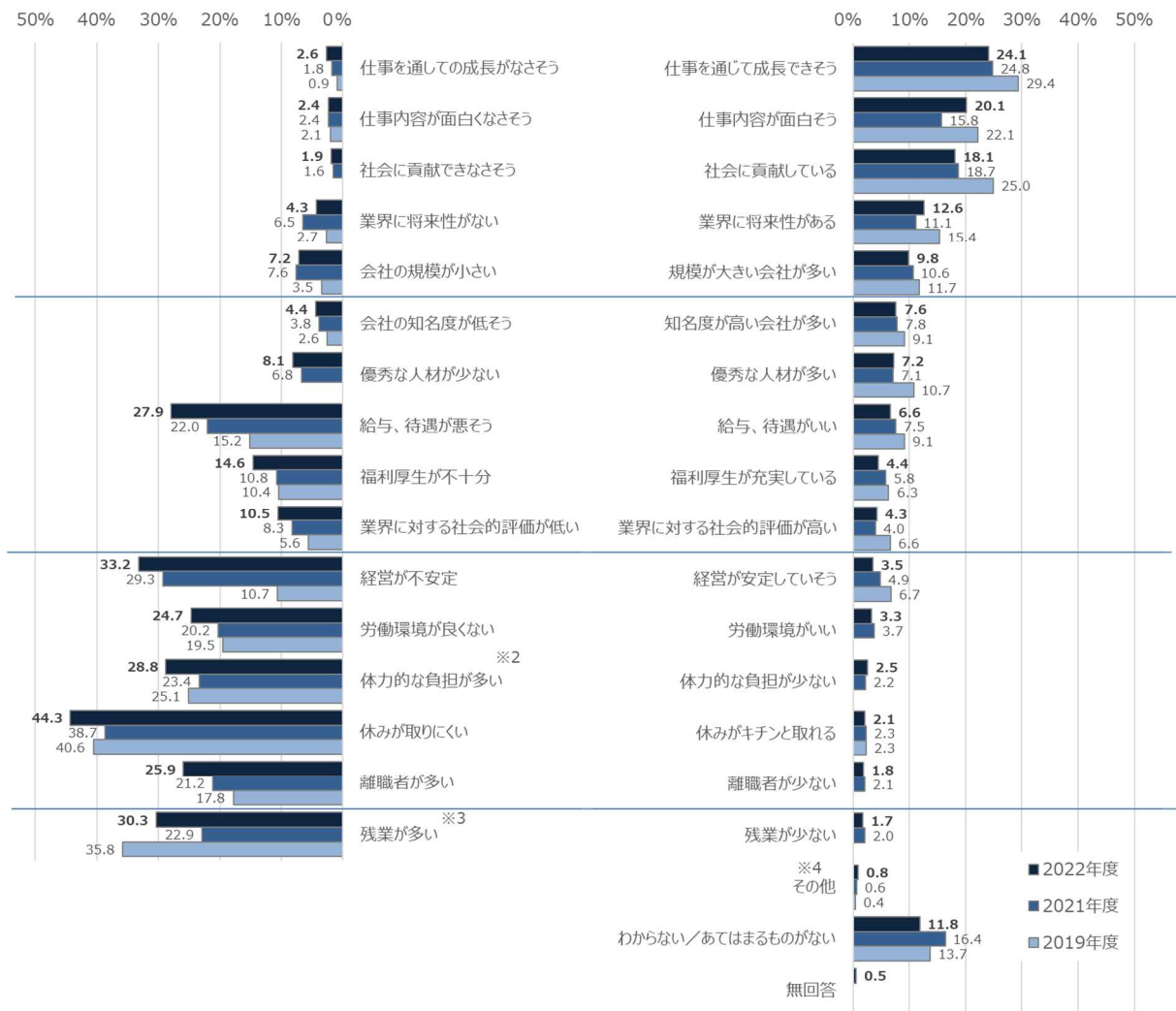
図表 観光産業に対する就業推奨意向（子どもが未就業者のみ）



(2) 観光産業のイメージ

- ・観光産業のイメージとしては、「休みが取りにくい」が44.3%で最多となった。以下、「経営が不安定」33.2%、「残業が多い」30.3%、「体力的な負担が多い」28.8%、「給与、待遇が悪そう」27.9%と続き、上位にはマイナスイメージが多い。
- ・前回調査同様、仕事内容にはプラスのイメージを抱いているものの、勤務形態や待遇面への不安があらわれる結果となった。前回調査と比較すると、上位のマイナスイメージはすべて増加した。

図表 観光産業のイメージ【複数回答】※1



※1：一部の選択肢は2021年度調査で新設されたものであるため、2019年度以前の結果が表示されていない。

※2：2019年度までの調査票では「体力的にキツそう」と表現されていた。

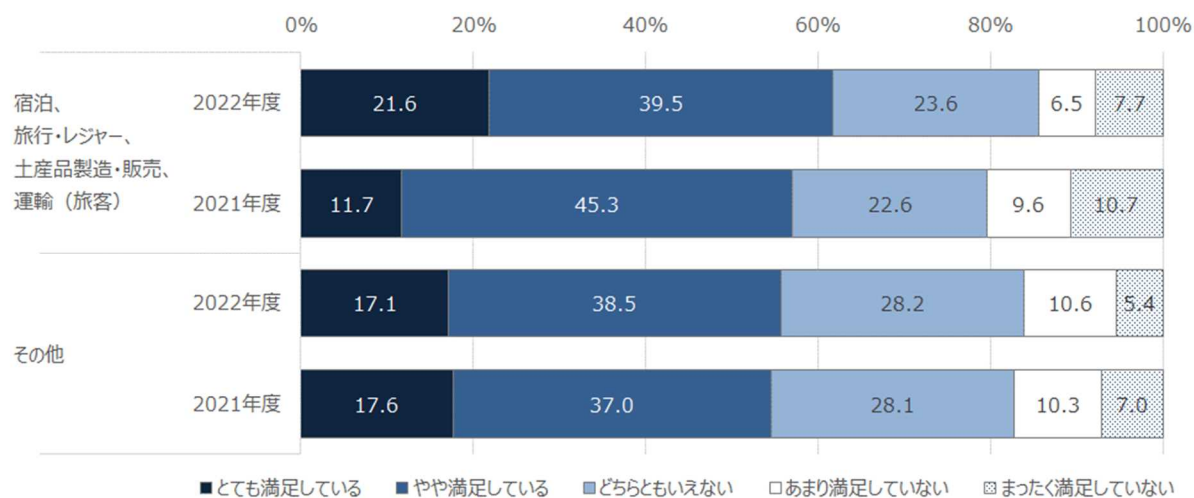
※3：2019年度までの調査票では「労働時間が長そう」と表現されていた。

※4：「その他」の自由記述で挙げられた内容：県内企業が少ない／精神的負担が大きい など

(3) 観光産業従事者の職業満足度

- ・観光産業従事者（宿泊、旅行・レジャー、土産品製造・販売、運輸（旅客））の職業に対する満足度は、「とても満足している」「やや満足している」を合わせると**61.1%**となり半数を超える。前回調査と比べると、「とても満足している」が増加している。
- ・観光産業以外（その他）の産業従事者と比べると、「とても満足している」「やや満足している」ともに観光産業従事者のほうが多い。

図表 現在勤めている職業に対する満足度（観光産業と観光産業以外）



4. 観光施策の重要度・達成度

・「沖縄文化の保全・継承・活用」「交通利便性の向上」「環境と共生した持続可能な観光」「沖縄らしい景観形成」等は、県民にとって重要度・達成率ともに高い項目であることから、現状の沖縄観光の強みとして、維持・強化していくことが必要である。一方、「交通事故等のトラブル防止対策」「円滑な移動」「風評被害対策」「誰もが快適に過ごせる環境整備」等は、県民にとって重要度が高いにもかかわらず達成率が低位に留まることから、県民ニーズが高い施策であると考えられる。

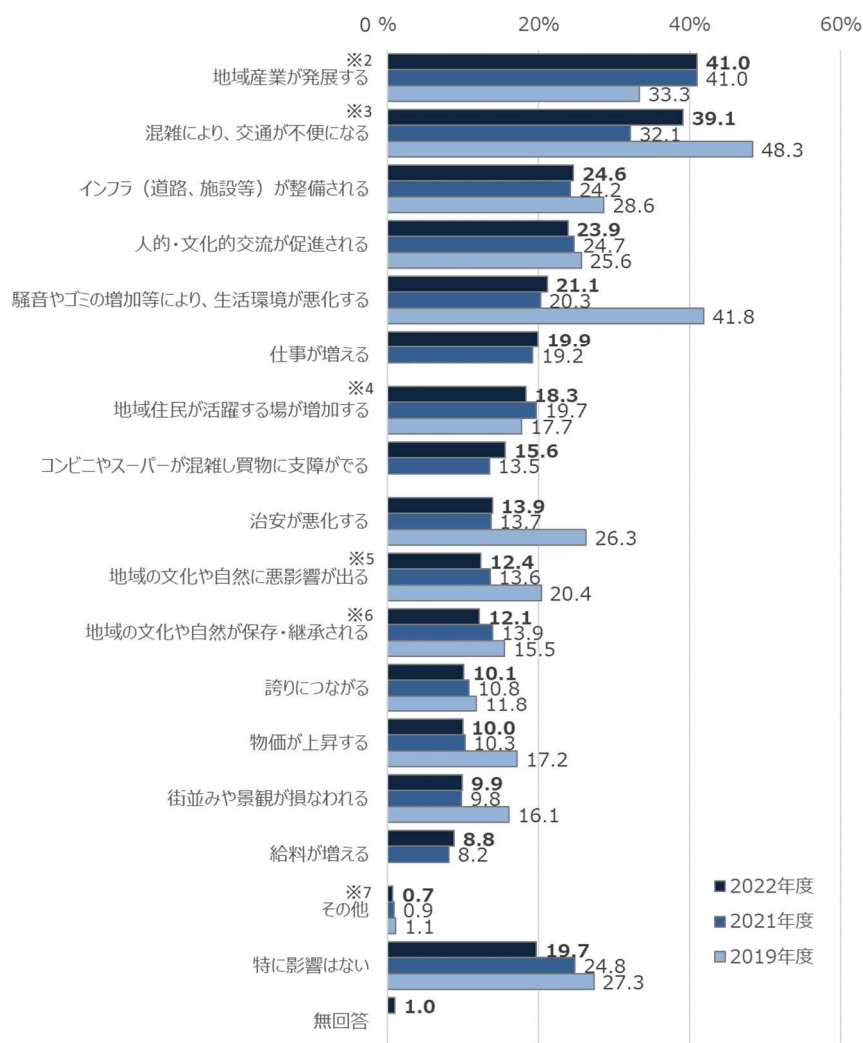
図表 沖縄観光の各施策の重要度と達成度の関係性



5. 観光客来訪による影響

・観光客が訪れることによる影響としては、「地域産業が発展する」が41.0%で1位となった。前回調査と比較すると、「混雑により、交通が不便になる」は7.0ポイント増の39.1%、「コンビニやスーパーが混雑し買物に支障がでる」は2.1ポイント増の15.6%となり、一部のマイナスの影響について増加がみられる。

図表 観光客が訪れることによる影響【複数回答】※1

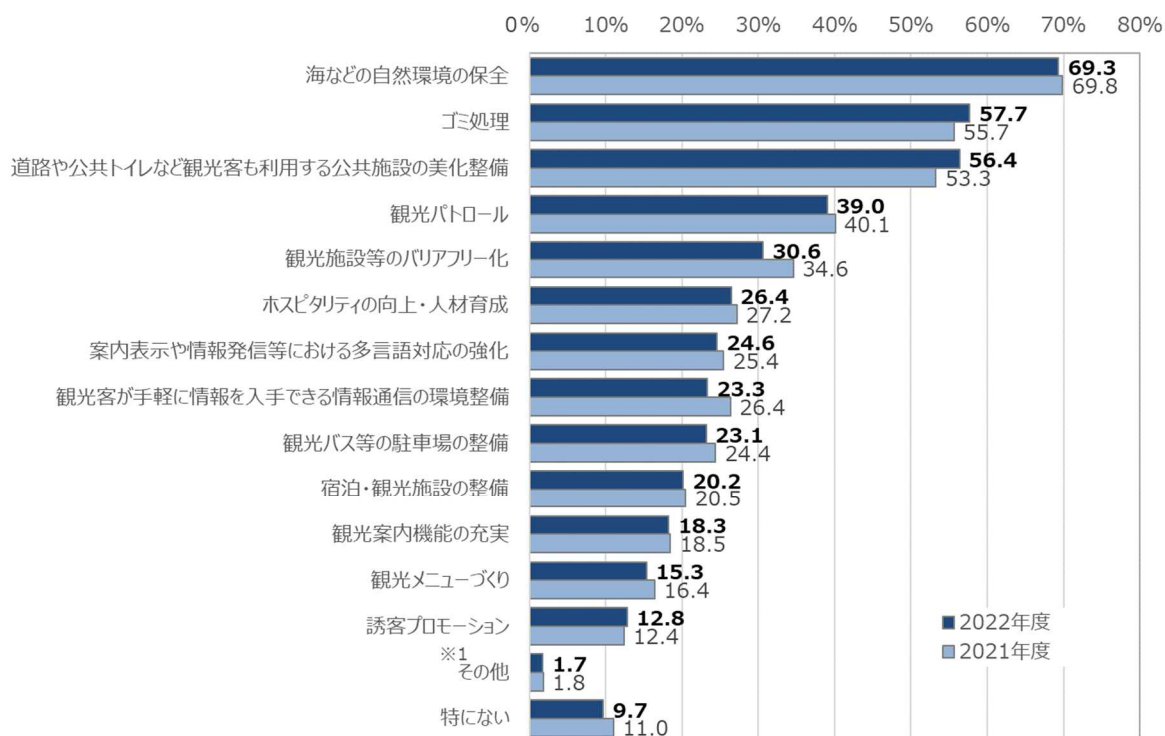


- ※1：一部の選択肢は2021年度調査で新設されたものであるため、2019年度の結果は表示されない。
 ※2：2019年度までの調査票では「地域経済、雇用、地域産業が促進される」と表現されていた。
 ※3：2019年度までの調査票では「バスや自家用車の混雑等により、交通が不便になる」と表現されていた。
 ※4：2019年度までの調査票では「市民が活躍する場が増加する」と表現されていた。
 ※5：2019年度までの調査票では「自然資源や文化資源に悪影響が出る」と表現されていた。
 ※6：2019年度までの調査票では「文化資源や自然資源が保存・継承される」と表現されていた。
 ※7：「その他」の自由記述で挙げられた内容：感染症の持ち込み／交通事故やルール違反が増える など

6. 観光税の導入に対する意識

- ・観光税の活用方法としては前回調査に引き続き「海などの自然環境の保全」が69.3%と最も多かった。次いで「ゴミ処理」57.7%、「道路や公共トイレなど観光客も利用する公共施設の美化整備」56.4%と続く。自然環境保全や環境美化への活用が多く望まれている。前回調査と比べて大きな変化はみられない。

図表 観光税を導入した場合の活用方法【複数回答】



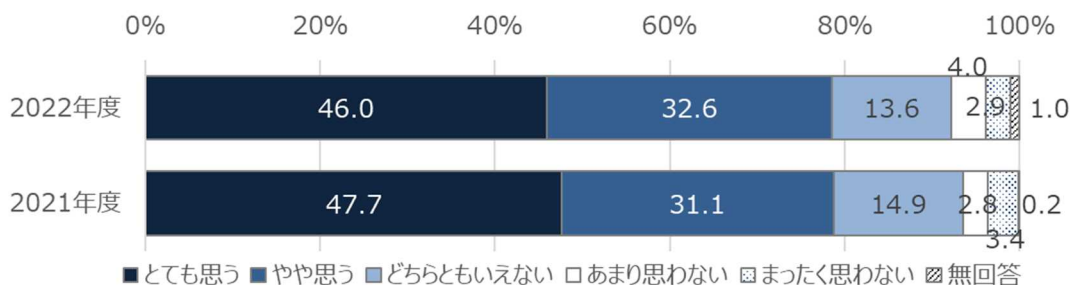
※1:「その他」の自由記述で挙げられた内容：県民への還元／貧困家庭の支援／道路の草刈り／鉄道インフラ整備 など

7. コロナ収束後の観光に対する意識

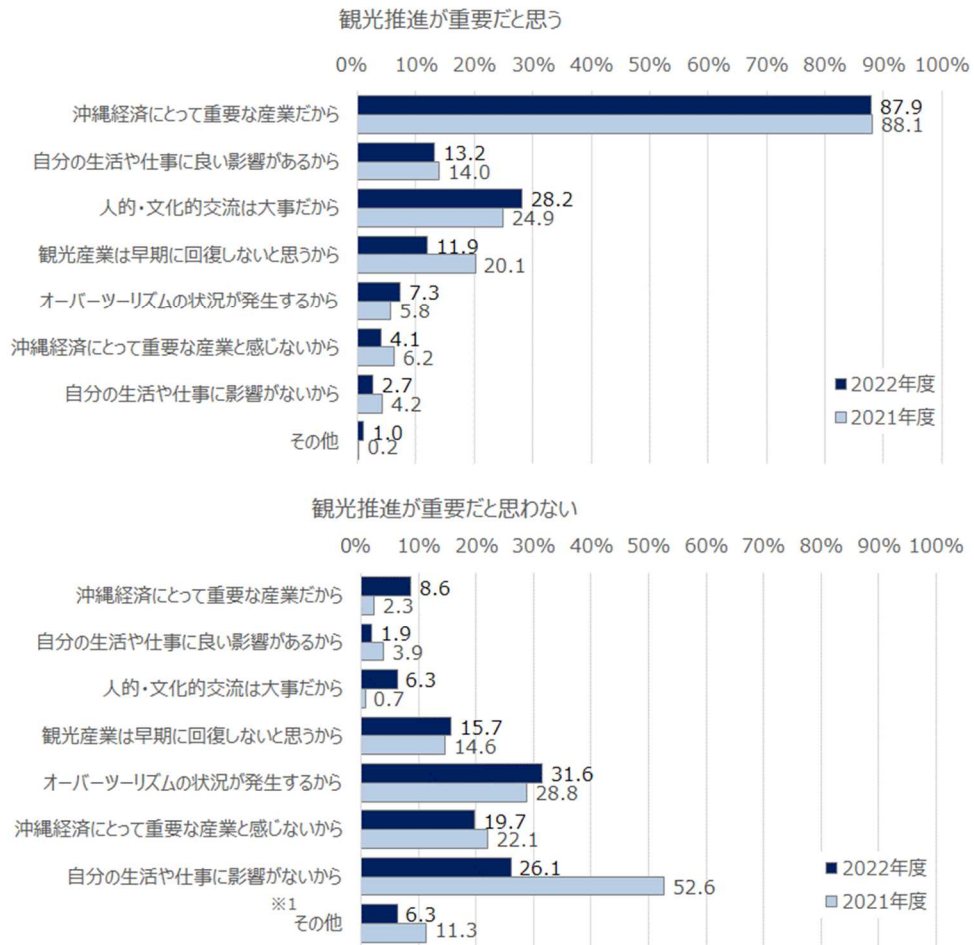
(1) コロナ収束後の観光推進の重要度と理由

- ・コロナ収束後の観光推進の重要度については、78.6%（とても思う＋やや思う）が重要であると認識している。
- ・コロナ収束後における観光推進の重要度について、その理由を尋ねたところ、観光推進が重要だと思う層（「とても思う」「やや思う」と回答）は、87.9%が「沖縄経済にとって重要な産業だから」を理由として挙げた。一方、観光推進が重要だと思わない層（「あまり思わない」「まったく思わない」と回答）は、31.6%が「オーバーツーリズムの状況が発生するから」、26.1%が「自分の生活や仕事に影響がないから」を理由として挙げた。前回調査と比べると「自分の生活や仕事に影響がないから」が大きく減少した。

図表 コロナ収束後の観光推進の重要度



図表 コロナ収束後の観光推進の重要度の理由【複数回答】

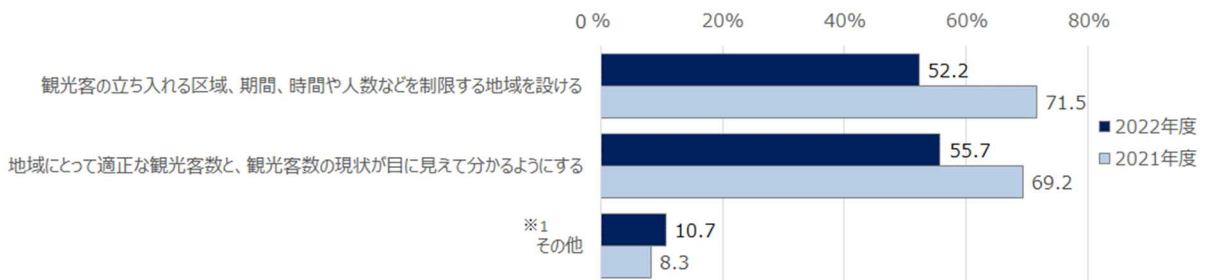


※1:「その他」の自由記述で挙げられた内容:観光に頼るべきではないから など

(2) オーバーツーリズムへの対応

- ・コロナ収束後における観光推進の重要度の理由について「オーバーツーリズムの状況が発生するから」と回答した人に、考えられる対策について尋ねたところ、「地域にとって適正な観光客数と、観光客数の現状が目に見えて分かるようにする」が55.7%、「観光客の立ち入れる区域、期間、時間や人数などを制限する地域を設ける」が52.2%となった。前回調査と比べると、いずれも減少している。

図表 「オーバーツーリズム」に関する対応【複数回答】



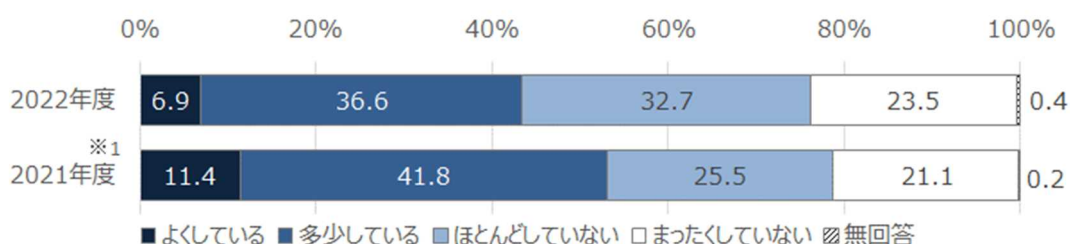
※1:「その他」の自由記述で挙げられた内容:交通インフラ整備/レンタカーの制限/観光税・入島税の導入 など

8. 持続可能な観光に対する意識

(1) 持続可能な観光の推進に関わる活動

- ・ 回答者自身の「持続可能な観光」の推進に関わるような活動については、「よくしている」「多少している」を合わせて43.5%が活動していると回答した。前回の調査からは9.7%の減少となった。

図表 持続可能な観光の推進に関わるような活動をしているか

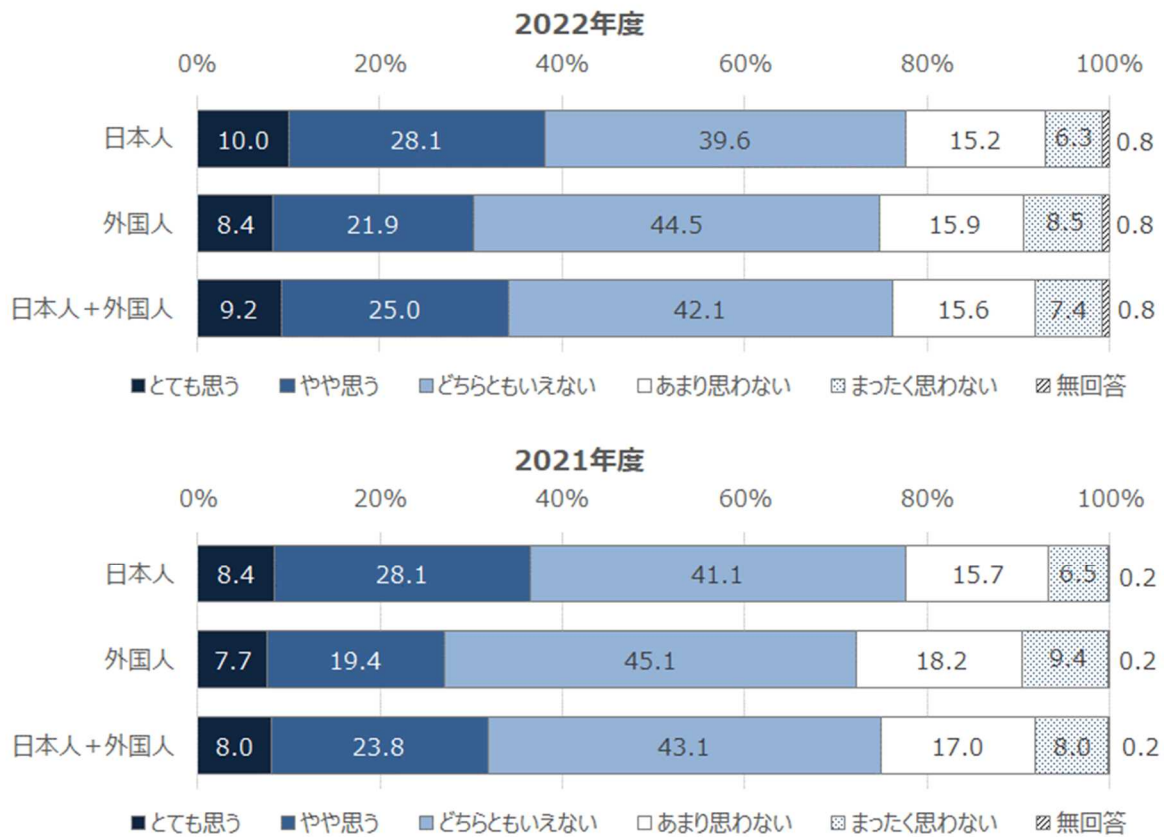


※1：2022年度調査より調査票における「持続可能な観光の推進に関わるような活動の例」を変更しているため、2021年度調査の結果と単純に比較することはできない。

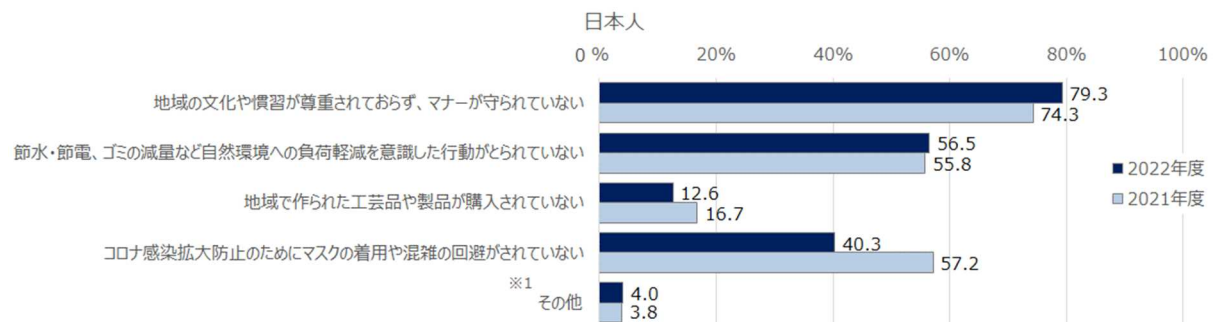
(2) 観光客に対する評価と理由

- ・ 沖縄県を訪れる日本人観光客と外国人観光客について、地域の人々の生活を尊重し、沖縄の自然や文化に敬意を有した旅行者としての行動が出来ていると思うか尋ねたところ、「とても思う」「やや思う」を合わせると、日本人に対しては38.1%、外国人に対しては30.3%、日本人と外国人を合算すると34.2%が行動できていると評価している。
- ・ 観光客の行動に対する評価が低い（「あまり思わない」「まったく思わない」と回答）人に対してはその理由も尋ねた。日本人、外国人いずれに対しても、「地域の文化や慣習が尊重されておらず、マナーが守られていない」が最も高く、次いで「節水・節電、ゴミの減量など自然環境への負荷軽減を意識した行動がとられていない」「コロナ感染拡大防止のためにマスクの着用や混雑の回避がされていない」となった。前回調査と比べると、日本人に対する「コロナ感染拡大防止のためにマスクの着用や混雑の回避がされていない」が減少した。

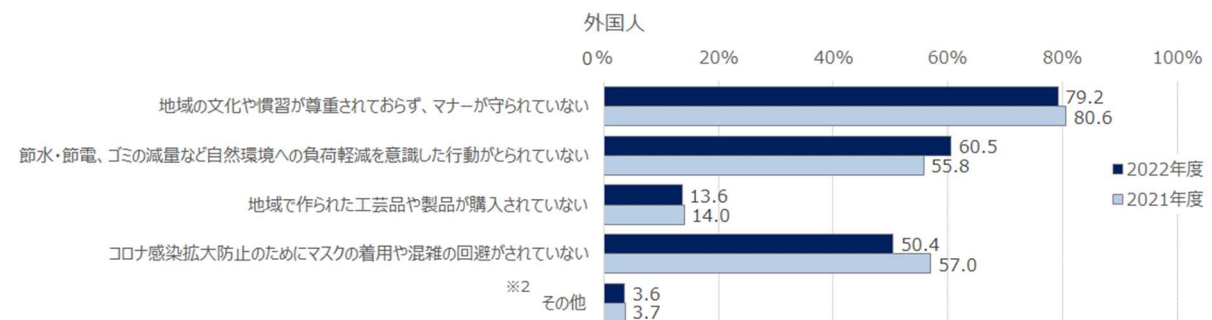
図表 観光客は地域の人々の生活を尊重し、沖縄の自然や文化に敬意を有した旅行者としての行動ができているか



図表 (観光客の行動に対する評価が低い) 理由としてあてはまるもの



※1:「その他」の自由記述で挙げられた内容: 交通・運転マナーが悪い/差別している など



※2:「その他」の自由記述で挙げられた内容: 交通・運転マナーが悪い/ごみのポイ捨てが多い/治安が悪くなる など